

京都府の地震活動

令和4年（2022年）7月

第 35 卷 第 7 号

京都地方気象台

目次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
【地震一口メモ】火山業務について	・・・ 3

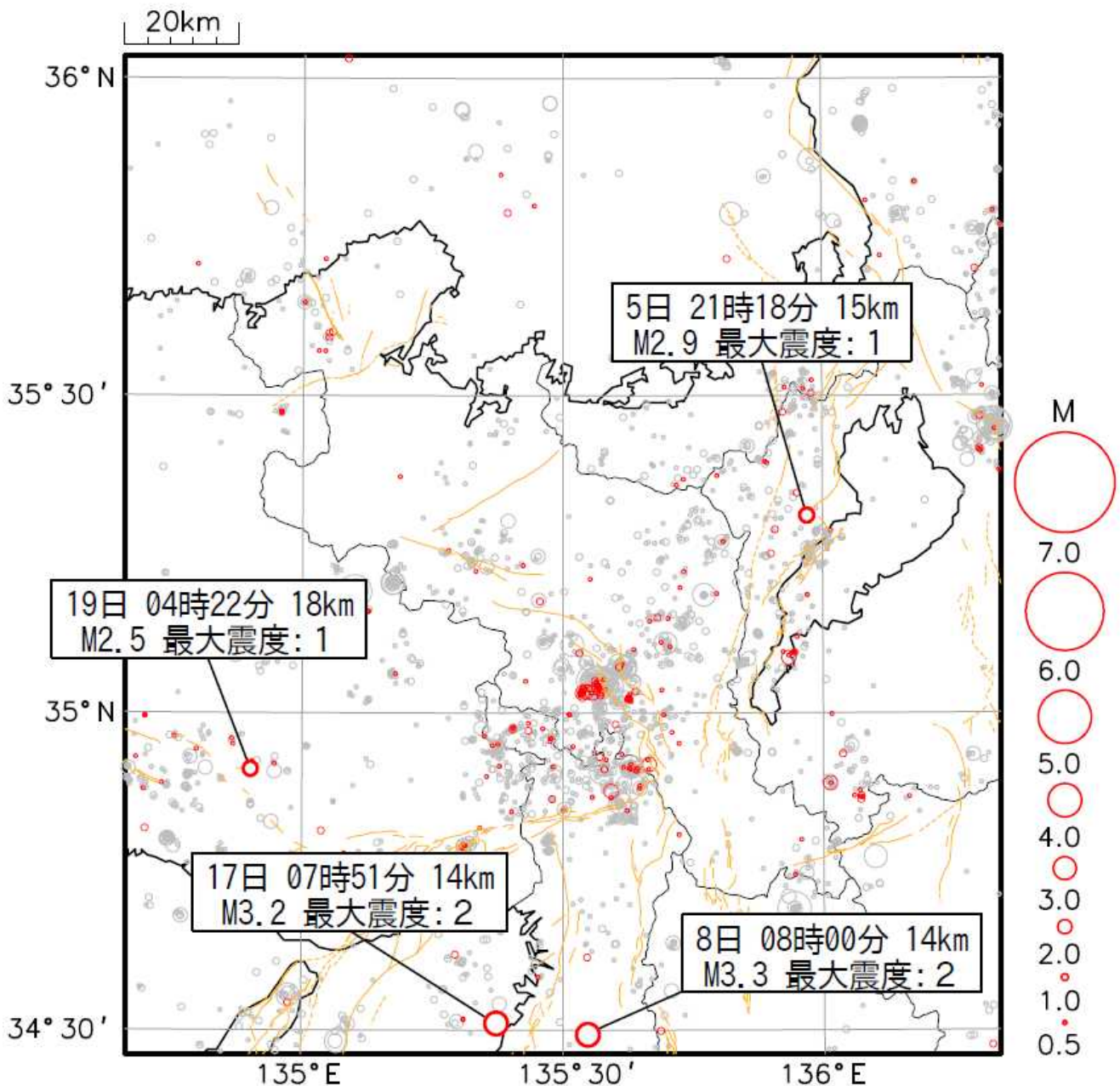
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



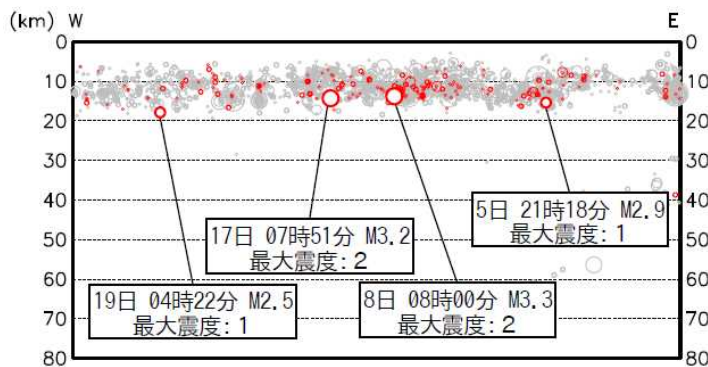
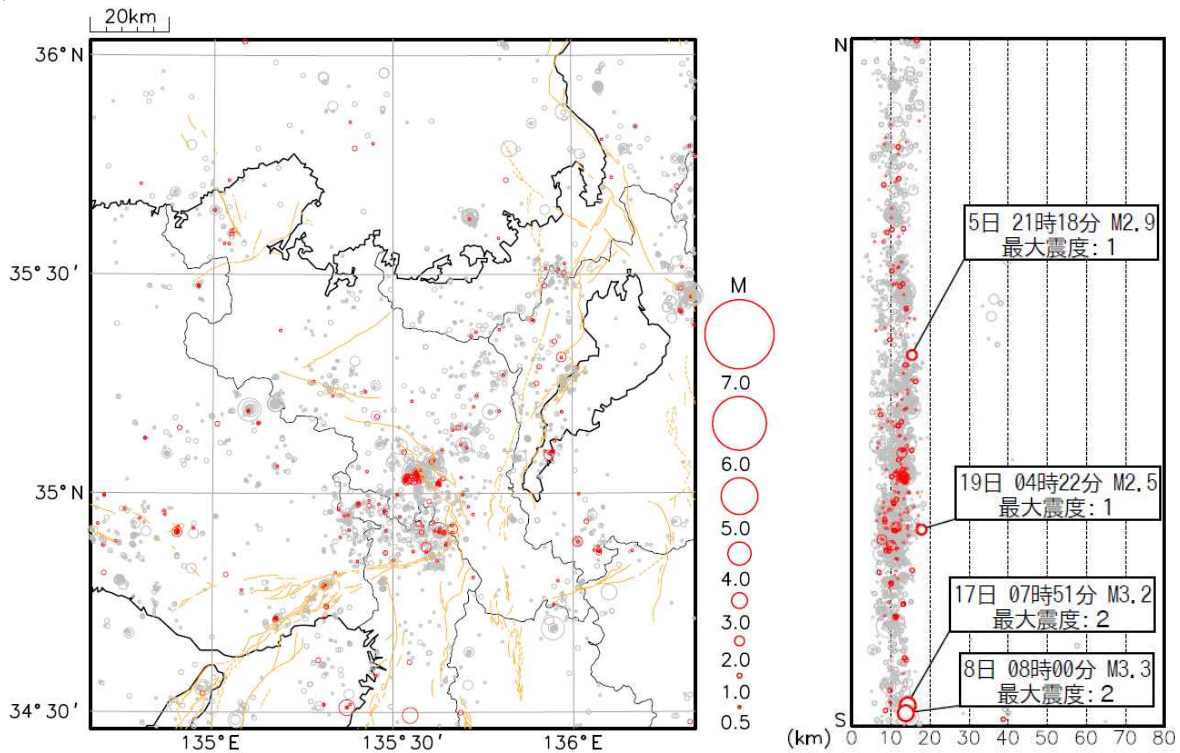
- ・（2021年8月1日～2022年7月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2022年7月の地震を赤く表示（総数260）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・オレンジ色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

7月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は11回、震度1以上の揺れを観測した地震は4回でした（6月はそれぞれ16回、7回）。

7月中、京都府内で震度1以上を観測した地震はありませんでした（6月は6回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



左上 震央分布図
 右上 震央分布図を東から見た断面図
 左下 震央分布図を南から見た断面図

- ・（2021年8月1日～2022年7月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2022年7月の地震を赤く表示（総数260）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・オレンジ色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

火山業務について

7月24日20時05分に鹿児島県の桜島（図1赤枠）で爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から約2.5kmまで達したことから、気象庁は20時50分に噴火警報を発表し、桜島の噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に引き上げました（その後、7月27日にレベル3に引き下げ）。

このように気象庁の業務の一つに火山業務があります。火山噴火予知連絡会では、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を「活火山」と定義し、令和4年7月現在、111の活火山を選定しています（図1）。また、この111の活火山の内、50の火山については、噴火の前兆を捉えて噴火警報等を適確に発表するために、地震計や監視カメラ等の観測施設を整備し、関係機関（大学等研究機関や自治体・防災機関）からのデータ提供も受け、火山活動を24時間体制で常時観測、監視しています。さらに、火山活動の状況に応じて、警戒が必要な範囲と防災機関や住民等のとるべき防災対応を5段階に区分して発表するための指標として、49の火山（令和4年7月現在）に「噴火警戒レベル」を導入しています（図2）。

気象庁は111の活火山について、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象（大きな噴石等の避難までの時間的猶予がほとんどない現象）の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に「噴火警報」を発表し、火山活動の状況が静穏、あるいは火山活動の状況が噴火警報には及ばない程度と予想される場合には「噴火予報」を発表します。なお、噴火警戒レベルを運用している49の火山では、噴火警戒レベルを付して噴火警報・予報を発表しますが、噴火警戒レベルの引上げ基準に現状達していないが、引き上げる可能性があると判断した場合、または判断に迷う場合に、「火山の状況に関する解説情報（臨時）」を発表します。また、その他には、降灰予報、週間火山概況等があります。

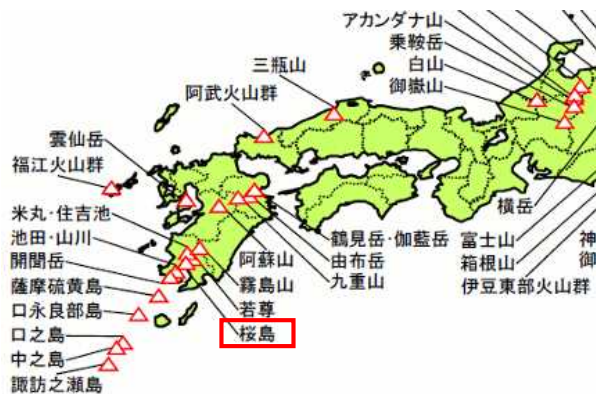


図1 我が国の活火山の分布（拡大）
（気象庁ホームページ）

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード	
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	レベル5	避難
			レベル4	高齢者等 避難
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで 火口周辺	レベル3	入山規制
			レベル2	火口周辺 規制
予報	噴火予報	火口内等	レベル1	活火山で あること に留意

図2 噴火警戒レベルとキーワード
（気象庁ホームページ）

シーズンをむかえ、観光等で特に活火山へ登山をされる際は、内閣府・気象庁が発行した「火山への登山のそなえ（以下内閣府ホームページ参照）」をご確認いただき、十分な準備や対策をお願いします。

気象庁ホームページ「活火山とは？」

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/katsukazan_toha/katsukazan_toha.html#katsukazan

気象庁ホームページ「噴火警戒レベルの説明」

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/level_toha/level_toha.htm

気象庁ホームページ「火山（気象庁が発表する火山に関する情報等）」

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/vol_know.html

内閣府ホームページ「火山への登山のそなえ」

https://www.bousai.go.jp/kazan/kazan_sonae/index.html